

尺八の歴史

奈良時代に唐より伝来し、当時の標準的な長さが一尺八寸だったので「尺八」という名称になったとのこと。聖徳太子や聖武天皇が愛用された①雅楽尺八（6孔3節）が正倉院御物として保存されています。

鎌倉時代には②「一節切『ひとよぎり』（5孔3節）」が現れ、田楽法師などの遊芸人の中でこれを吹いて物乞いをする集団があり、これが後の普化宗（※）と結び付き虚無僧となっていったそうです。

江戸時代に入ると鹿児島島の郷土楽器として③「天吹（5孔3節）」、普化宗に属する虚無僧が修行にのみ使用が許される法器としての④「虚無僧尺八（5孔3節）・普化宗尺八（5孔7節）」の4種類になりました。

明治時代以降からは普化宗が廃止され一般人でも演奏可能となり、西洋音楽の影響もあり⑤多孔尺八（7孔、9孔）が開発されていますが、（5孔9節）が主流となっているそうです。

※普化宗（ふけしゅう）

江戸時代に盛行した禅宗の一派。唐の普化を祖とし、1254年（建長6）に東福寺の覚心が伝来。その徒を虚無僧（こむそう）といい、尺八を吹いて諸国を巡行。下総一月寺・武蔵鈴法寺を本山としたが、1871年（明治4）廃宗。